

子どもの未来応援団報告書

表題：国際交流に係る台湾の高校生との交流

学校・団体名：長野県高遠高校

活動グループ名：全校

担当者・教諭名：教諭 松村 夕子

活動人数：280名

(1) 活動を始めた理由

地域に根ざした探究活動を活かし、更に視野を広げ、国際交流を通して、異文化や国際理解への興味関心を高め、コミュニケーション能力を育むことを目的とする。またこの活動を地域に返し、地域を拓く活動に繋げていくことを目的とし、台湾の高校生と積極的に係わることを計画した。

(2) 活動内容・活動の写真(カラー)



弓道部演技



剣道部演技



書道パフォーマンス



全員合唱



全員集合写真



書道専攻生による書の体験



生徒会役員と一緒に

3) 活動結果

台湾台中市西苑高級中学校18名と校長先生含む2名の先生をお迎えしての全校をあげての交流会となった。

歓迎セレモニーでは弓道部、剣道部による実技演技、書道部によるパフォーマンス、西苑高校からビデオと英語による学校紹介、最後に「世界に一つだけの花」を合唱部のリードにより全員で合唱をした。特に合唱は西苑高校の中国語による歌声と本校生徒の日本語による合唱だったが、言葉は違えども合唱として成り立つ不思議さを生徒たちは感じながら、音楽というものを通して心を通わせていたのがとても印象的であった。

その後、高遠城址公園へ生徒会執行部が案内し、お弁当を食べながら、それぞれが工夫をしながらコミュニケーションを取り、楽しいひと時を過ごしてくれていた。日本語、中国語、英語が飛び交う中での高校生ならではのコミュニケーションも印象的であった。本来であれば伊澤修二の生家、進徳館も見学する予定であったが、生徒たちの時間が盛り上がりすぎ、中止せざるを得なかった。

最後は書道専攻の生徒たちが、西苑高校の生徒に「さくら」の書き方を教えることに取り組んだ。最初は教えることに戸惑っていたが、ジェスチャーを交え、また交流を楽しみながら教えていた姿があった。それぞれ素晴らしい作品に仕上がりに、日本のお土産として持って行ってもらったことも台湾の生徒たちにとってはとても嬉しかったようである。

この交流を通して、本校の生徒たちは異文化に触れること、おもてなしの気持ち、また言葉が通じないことによる不安もこの交流により払しょくされ、正に国境を越えた仲間を作ることができたことの収穫はとても大きかったようである。現代の若者らしく、その後もインスタグラムで繋がったり、次は自分たちが台湾へ訪問してみたいという生徒が多数出てきたこと、今回の交流を通しての目的を果たせたと職員一同実感しているところである。

この訪日を機に台湾のこの仲間が再びこの高遠に家族や友人を連れて訪れ、今回交流した生徒と更なる交流が深まること期待したい。